

モイワサナエ

Davidius moiwanus

サナエトンボ科

名前の由来

札幌市にある藻岩山で最初に発見されたことに由来する。サナエは「早苗」の意で、春の早い時期、つまり田植えの時期に出現することに由来する。漢字名：藻岩早苗



モイワサナエ。右下はモイワサナエの前胸のもよう

形態的特徴

体長43～46mm。目と目が離れていることがサナエトンボ類の特徴で、黒地に黄色の斑紋がある。

類似種と見分け方：ホンサナエ、コサナエ。胸部の模様で区別できる。

生息環境・分布

平地から低山の林に囲まれた河川や湿地の緩やかな流れなどに生息している。

では、全域に分布。

分布：日本特産種。国内分布は、本州中部以北。北海道内

十勝地方では、平地から低山の林に囲まれた河川や湿地の緩やかな流れなどに生息している。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカやハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

産卵はメスが単独で水際のコケや背丈の低い草の上などでホバリングしながら卵をばらまいたり、草に静止したまま卵を産み落とす場合もある。成虫は6月上旬から8月下旬

に見られる。

寿命：幼虫期間1年以内、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■日本特産種で、札幌市の藻岩山に因んだ名前をもつトンボである。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

■池沼に生息する多くのトンボとは異なり、河川を主な生息環境とするトンボである。

■6月初旬、新得町内の池の周りで一斉に羽化した日に遭

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するとき水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993
「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002
「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村光俊 東海大学出版会 1988
「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982

「日本産トンボ大図鑑」 浜田康・井上清 講談社 1985
「カラー日本のトンボ」 石田昇三・浜田康 山と溪谷社 1973
「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法政大学出版局 1977

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ